

いつだって好奇心 手を伸ばせばそこに本

子どもの読書活動 学校・園の取り組みを紹介します⑧

問 社会教育課 ☎(582)1142 ☎(581)2733

玉津こども園

「おにいさん、おねえさんのおはなし、なあに？」 絵本やクイズを通しての楽しいひととき

ここ数年、玉津小学校の図書委員が、委員会活動の締めくくりとして、玉津こども園の5歳児へ「本の読み聞かせ」に来てくれています。



今回は、小学生が絵本を読んでくれた後、園児へ内容についての三択クイズを出題してくれました。園児は、小学生の読み聞かせに集中して見入り、簡単とばかりに自信をもってクイズに答えていました。大人以外の人からの読み聞かせの機会は、園児にとって貴重です。園では毎日たくさんの絵本に出会います。その中で、いろいろな人と一緒に絵本の世界を楽しむ機会を今後も大切にしていきます。

中洲こども園

みんな大好き！「わくわくお話し会」

廊下から何やら楽しげな音楽が聞こえ、それに合わせるように子どもたちの歌声が重なります。「おはなしか〜い、おはなしか〜いワクワクク・・・」中洲こども園では、月2回保育者がお話し会を開催しています。保育者が子どものころ好きだった絵本や、紙芝居、手づくりペーパーサートなどを全園児が楽しみに聞いています。



お気に入りの絵本を持ってくる子どもの姿も見られ、お話し会が終わった後は、子どもたちが先生役になり、「わくわくおはなしかいのうた」を歌いながら、保育者や友達に読み聞かせる姿も見られます。

子どもたちが心を動かし、たくさんの絵本に出会い、心豊かに安心、安定しながら過ごせる時間も大切にしています。※歌も保育者の手作りです。



佐川美術館
アートコラム⑨

おもてなしの心

公益財団法人佐川美術館
学芸員・松山早紀子



日本伝統の、湯を沸かし、茶を点て、茶を振る舞う様子を茶道といいます。

茶道では、まず初めに作法を習いますが、茶道の作法には一つ一つの意味があります。そして、その動作には無駄がなく、実に理にかなっています。その根底にあるのは、お客さまに淹れたての一杯の美味しいお茶を差し上げたいという「おもてなしの心」と言えます。この茶の湯から始まったと言われる「おもてなしの心」は、お客さまや大切な人への気遣いや心配りをする心が築かれた、世界に誇れる日本の文化と言えます。お茶を点ててもなす人(亭主)は、お招きする人(客)のために、何日も前から道具組(湯を沸かすための釜や、茶を点てるための茶碗などを決めること)や、お菓子や料理を考え準備をします。茶会当日も露地(つち)に水を打って清めたり、切りたての花を入れたりして、お客さまには心を尽くし思いつくりの丁寧さ(ていねい)で対応します。それが「おもてなしの心」になります。

佐川美術館では、展覧会が開催される数年前から企画を考えて準備し、作品の魅力を最大限にご紹介できるように工夫をしています。また、お客さまが気持ちよく鑑賞いただけるように清潔感あふれる環境をつくり、美術館職員全員がお客さまに喜んでいただきたいという「おもてなしの心」で皆さまをお迎えし、接するよう心掛けています。